

## <第四章>フォニックスと音読指導

### 4.1 フォニックスによる文字と発音の指導

音読するためには、各単語の発音を知っていて、速やかに発音する必要がある。しかし、現状は指導者が新出単語の発音を聞かせて、練習していることの方が多い。

→学習者は一つ一つの単語の読み方を記憶して、それを思い出しながら読んでいる。

→このような暗記には限界があり、初見の単語は読めない。

本来音を表すアルファベット文字は漢字などと違い、初見でも原則に従えば読めるはずである。(2004年発行の中学校検定教科書(全6社中、主要4社)の中の語彙の約75%は基本的なフォニックス・ルールを適応して読むことができる。)

また、英語を母語とする子どもたちに対しても就学前後に明示的体系的なフォニックス指導の効果が実証されている。

#### ■フォニックス指導の主な効果

- ①自分で読めることで自立学習が可能になり、読む量を増やせる
- ②単語や文を音読できることで、記憶を助ける
- ③スペリングを丸暗記する負担が軽減される
- ④基本的な読み方を知ることで、スペリングや読み方に注意が向けられる
- ⑤文字が表す音を教えていくので、正しい発音も学ぶ

#### ■フォニックス指導の失敗原因

- ①十分な音声活動をせず、文字を書く練習やルールの指導を行っている
- ②ルールを覚えることが目的となっている
- ③単語を読む練習に、意味理解を伴っていない
- ④学んだフォニックス・ルールを使って自分で読む機会を与えていない

#### ■フォニックス指導の留意点

- ①指導に先立ち、音声インプットを十分に行い、英語の音に慣れる
- ②既知の単語を基本素材とし、意味を伴った活動を心がける
- ③目的はルールを覚える事ではなく、ルールを使って読むことである
- ④指導者は正しく発音し、時には分かりやすくするために誇張して発音するなどして、正しく発音するよう指導する
- ⑤自力での読み書きを促し、読めた場合はこれを評価する
- ⑥速く正確に読めるまで練習する(ディコーディングの自動化) →初めて見る単語を音に出来るようになることが目標。

※指導者はフォニックスの知識と指導法を身につける必要があり、どの単語がルールに従っているのか、どの単語を例外として扱うべきか、生徒にとって何が難しいのかを認識し、自発的な読み書きを支援していかなければならない。

#### 4.1.1 フォニックス指導の準備

読みの学習の前提条件は、音声認識と文字認識である。学習開始年齢にかかわらず、「十分な量の音声に触れる活動」と、「文字認識の自動化をはかる活動」、さらに「文字が表す基本の音の指導」を並行して行い、フォニックスのルール指導に備える。

##### (1) 英語の音を知る（音節認識）

学習開始時期にかかわらず、まず英語の音声的特徴を知ることが大切である。歌や詩や絵本を使って、英語の音を聞かせることから始め、だんだんと言えるところから声に出すよう促す。

##### 【指導例】

- (a) チャンツや歌を使って
- (b) 外来語や絵辞典などを使って
- (c) 外来語を英語らしく

##### (2) 英語の文字を知る

文字は「知っている」だけでなく、速く正確に認識できるまで練習する。

##### 【指導例】

- (a) アルファベット文字の名前
- (b) 大文字小文字と3種類の小文字のサイズ
- (c) 仲間探し
- (d) 紛らわしい文字

##### (3) 文字が表す音があることを知る

文字が表す音とキーワード（フォニックス・アルファベット・ジングル）を指導し、アルファベットの仕組みを理解させる。これは筆記による学習から脱却し、アルファベットの特徴を踏まえた学習を実現する第一段階である。

##### 【指導例】

- (a) フォニックス・アルファベット・ジングル（フォニックス基本ルール）

## (b) 単語探し

### 4.1.2 フォニックス・ルールの指導

4.1.1 の活動により十分な音声指導とアルファベットの文字の指導を行った後、フォニックス・ルールを指導する。中学校では集中的に指導する方法と、テキスト内の単語に合わせて随時行う方法がある。そして集中的に指導する場合は、ルールを全て教えるかどうかという点で指導法が異なる。

- (1) 指導案（集中指導）
- (2) 指導案（教科書にそって）
- (3) ルールの整理（チャートをつくる）

### 4.1.3 スローラーナーの支援、リメディアル指導

英語が読めない場合、まず 4.1.1 の読む準備の段階でつまづいていると考えられる。問題が音の認識にあるのか、文字の認識にあるのか、音との文字の対応にあるのかを観察し、適切なサポートを行う。

#### ■音読時のフォニックス指導

生徒に音読させ、躊躇したり、読めなかったりしたときにヒントを与えて読めるように導く。

#### 考察

私は中学時にフォニックス指導をすることは有用であると考えます。確かに中学生にフォニックスを教えることは難しいかもしれないが、教える価値は大いにあるだろう。未知語を読むことができる能力は身につける時期が早ければ早いほどその後の学習に有用となる。その後の学習のことを考慮すると、指導に関して教師の負担はかなり多いかもしれないがやはり中学生時に教えるべきであると考えます。